

カネコトタテグモ *Antrodiaetus roretzi* (L. Koch)

【選定理由】

本種を含む地中性のクモは、崖地（法面）などの改修によるコンクリート化や人為的な土地の攪乱・崩壊によって生活場所を失うことが多い。そのため、都会の周辺では激減している。山地等ではまだ比較的多く見られるが、将来的には心配があり絶滅危惧種と評価された。



北設楽郡設楽町裏谷, 2007年5月11日, 緒方清人 撮影

【形態】

体長雌 12~18mm、雄 9~13mm。背甲の中窩は縦向き。上顎の牙は上下に可動。胸板は長さと同幅がほぼ同じ、有毛だが前方に無毛の部分がある。

【分布の概要】

海拔 1m の海岸近くから 1,200m（茶臼山）まで、県内全域に分布する（須賀, 1989）。環境省リストの準絶滅危惧種であるが、県内ではキシノウエトタテグモよりも分布範囲が広い。

国内では、本州に分布する（新海ほか, 2018）。

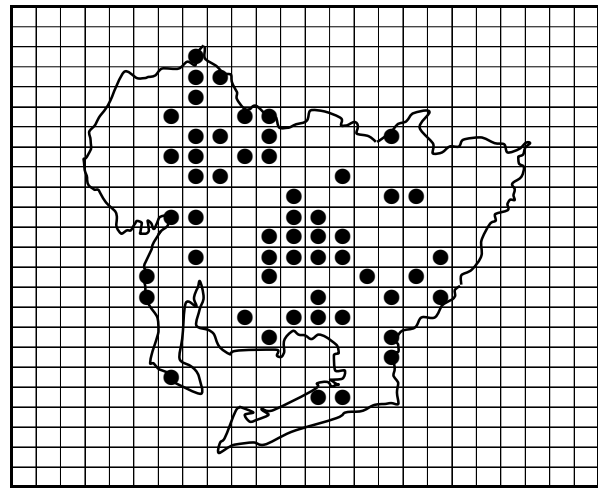
【生息地の環境／生態的特性】

崖地に約 20cm の横穴を掘り、入り口に両開きの扉を付け、その中で生活する。扉には周りのコケや土を付けてカムフラージュしている。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内に広く分布するが、記録は散発的である。道路拡張工事や住宅開発などで、生活場所が失われ減少傾向にある。

県内分布図



【保全上の留意点】

崖地を工事する際は、十分な配慮が必要である。

【引用文献】

須賀瑛文, 1989. 愛知県・三重県・静岡県におけるトタテグモ類三種について. 蜘蛛, 22: 10-11. 中部蜘蛛懇談会.
新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. pp.18,162. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.2. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.24. 文一総合出版, 東京.
小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.86,597. 東海大学出版会, 神奈川.
小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.31,481. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)